

ESD地球市民村「ラーニング・プログラム」 PART 1 参加ガイド

ESD地球市民村「ラーニング・プログラム」概要

主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム

共催：ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会、中日新聞社、

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育10年」推進会議（ESD-J）

助成：平成25年度愛・地球博成果継承発展助成事業（一般財団法人地球産業文化研究所）

後援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

お問い合わせ先：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム事務局

〒164-0001 東京都中野区中野2-3-13 株式会社コミュニケーション・デザイン研究所 内

電話：03-3229-1269 E-mail:desd@desd.jp



特定非営利活動法人
白川郷自然共生フォーラム
木の實の餅づくり



22世紀奈佐の浜
プロジェクト委員会
100年後伊勢湾の
漂着ゴミを0に



中日新聞のESD
地球未来こども塾



持続可能な
未来への学び

ESDプログラムを実際に体験してみたい！
そんな皆様向け、優れたESDプログラムが集結し、
選んで体験できる、初めての参加型事業です。

第2弾は2014年1月13日（月・祝）に、
ウインクあいちで開催予定です！

6つのプログラムが参加する第2弾をウインクあいち（愛知県産業労働センター）で開催致します。

詳細は「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラムHPで発表致します。www.desd.jp

豊田産業文化センター（小ホール、4階会議室および屋外ピロティ）
〒471-0034 豊田市小坂本町1-25

開催日時 2013年11月30日 12:00～16:00

ESD地球市民村「ラーニング・プログラム」のご紹介

ESD地球市民村「ラーニング・プログラム」は、分かりにくい・難しいと言われがちな「ESD」について、実際に日本各地で実践されている優れたプログラムを模擬教室で体験していただくことで、テーマの広がりを実感していただき、ESDを身近に感じていただくためのプログラムです。プレゼンテーションタイムで紹介される多彩な4つのプログラムの中から気になるものを自由に選んで、お気軽にご参加ください。

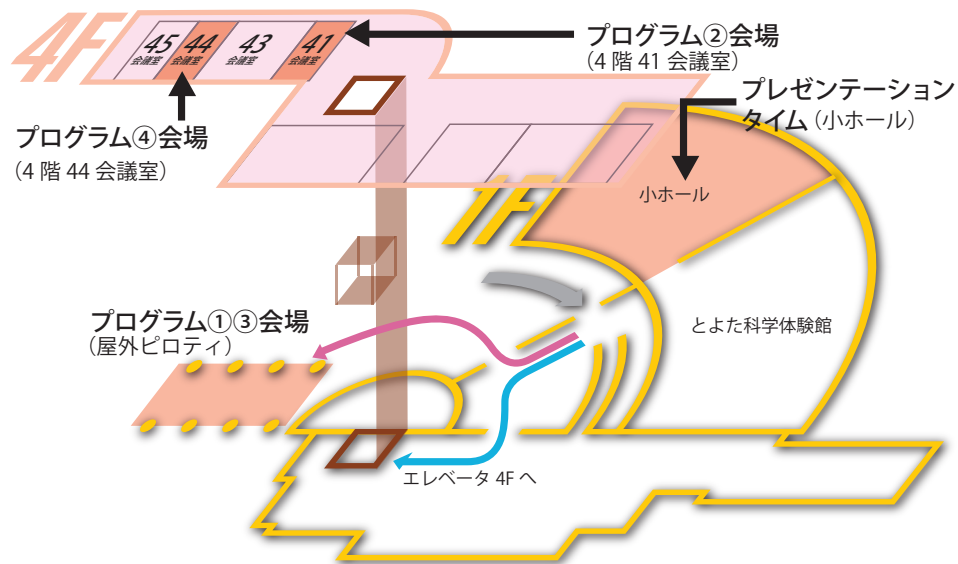
「ESD」は“身近な普段の生活”の中にあります。

ESDとは「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の略称。その内容は「一人ひとりが、世界の人人や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義されています。学校に通う子どもたちはもちろんのこと、地域や社会で暮らす全ての人の生活の中に「持続可能性」を実現していくための気づきやきっかけがあるということなのです。

2014年「国連ESDの10年」最終年はあいち・なごやで世界会議が開催されます!

2002年のヨハネスブルグサミット(持続可能な開発に関する世界首脳会議)で、日本は、持続可能な社会を実現するために世界中で人づくりに取り組むことを国連・ユネスコに提案しました。これを受けて開始された国連・ユネスコのプロジェクトが「国連ESDの10年」(2005年から2014年)。その最終年となる来年2014年には、ここ愛知でユネスコの公式会合「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催され、世界中がこの10年間に総括し、これからのESDの普及と発展のためにできることを話し合います。

会場MAP



参加方法

12:00~12:30 プレゼンテーションタイム(小ホール)

- 1) まずは小ホールのステージで実施される「プレゼンテーションタイム」で4つのプログラムの紹介をお聞きになり、参加するプログラムをお選びください。
- 2) 選んだプログラムの開始時間と会場を本ガイドや会場の案内で確認、開始時間までに各会場へお越しください。参加登録を済ませたら体験スタート!

13:30~14:30 ESDプログラムの「参加体験」1回目

- 3) プログラムが終了したら、15分間の休憩をはさんで第2回目にもご参加いただけます。ぜひ第1回目とは違うプログラムに参加して、ESDのテーマの広がりを感じてみてください。(2回続けて同じプログラムにご参加いただくことも可能です。)

14:30~14:45 休憩・移動時間

14:45~15:45 ESDプログラムの「参加体験」2回目

※各回の体験終了後は参加者アンケートにご協力ください!

参加にあたってのご注意

- ◆プログラムによって開始時間・終了時間が違う場合がございます。詳細は各プログラムの紹介ページや会場の案内でご確認ください。
- ◆混雑状況によっては、ご希望のプログラムにご参加いただけない場合もございます。あらかじめご了承ください。

	プログラム1 木の実の餅づくり	プログラム2 持続可能な未来への学び	プログラム3 中日新聞のESD地球未来こども塾	プログラム4 100年後伊勢湾の漂着ゴミを0に
12:00	1階 小ホール	屋外 ピロティ	4階 41会議室	屋外 ピロティ
12:00~12:30	プレゼンテーションタイム			
13:00				
13:30~14:30	参加体験1回目	13:00~14:30 ①ピアレビューを使って対話する	参加体験1回目	参加体験1回目
14:00				
14:30	休憩・移動時間(15分間)			
15:00	14:45~15:45 参加体験2回目	14:45~15:45 ②ゲーテ発・ニューサイエンスの視点と出会う	参加体験2回目	参加体験2回目
15:30				
16:00				

※小ホールでは引き続き16時まで「ESDフェスタ」のプログラムが実施されます。

プログラム① 木の実の餅づくり

会場 屋外ピロティ 実施者/団体名 特定非営利活動法人 白川郷自然共生フォーラム
13:30~/第1回参加体験 14:45~/第2回参加体験

森とともに暮らしてきた白川郷の生活遺産にふれる

どんぐりなどの木の実は、鳥やリス、野ネズミといった森の動物たちの大切な食べ物です。それらの動物たちは、木の実を食べるだけではなく、種まきを手助けして、森づくりに一役買っています。白川郷の人々も、さまざまな恵みをもたらしてくれる森を上手に利用しながら、大切にしてきました。そんな森の恵みをいただく‘栃餅づくり’を体験しながら、森とともに暮らしてきた白川郷の先人の知恵にふれます。搗いた栃餅はお召し上がりいただけますので、森の幸のお裾分けをみんなでいただきますよう。



プログラム② 持続可能な未来への学び

会場 4階 41会議室 実施者/団体名 日能研
13:00~/ピアレビューを使って対話する 14:45~/ゲート発・ニューサイエンスの視点と出会う

①ピアレビューを使って対話する

聞か！伝える！とっておきの学び方、あります！

「思考を大切にしないで、それはいつか言葉になるから。言葉を大切にしないで、それはいつか行動になるから…」マザー・テレサの言葉です。

ていねいに考え、ていねいに言葉を使い、ていねいにやり取りする。なぜ自分はその言葉を使った？相手はどのように考えてその言葉を使っている？その奥にはどんな価値観があるのだろうか？「持続可能な未来」のためには、自分とは違う文化や背景を持った人たち同士で対話をしていくことが必要！ということも誰しもが気が付いている。では、その対話力はどうやって育てる？

今回は「科学的ってどういうこと？」をテーマに、ESDで大切にしている学びの1方法を体験します。

②ゲート発・ニューサイエンスの視点と出会う

豊かな未来へ！今こそ必要！ゲートの発想

「ゲートは科学者だった」ということを知っていますか？一人ひとり違う存在である、という“個”。人種や文化を超えた共通点を見出せる、という“全体”。「人間の中には“個”と“全体”とがある」この一見すると科学的ではないように感じられる視点に、科学者として初めて光を当てたのがゲートです。そんなゲートから始まったニューサイエンスの考え方・ものの見方が、今こそ必要…？

ミカエルカレッジ(大人のためのシュタイナー学校)でも教鞭をとる志賀くみみつ氏をお迎えした、今回だけの「日能研×ミカエルカレッジ」コラボ企画！普段あたり前に使っている「科学的」という言葉。「科学的って何だろう？」を一緒に考えてみませんか？



プログラム③ 中日新聞のESD 地球未来こども塾

会場 屋外ピロティ 実施者/団体名 中日新聞社 事業局社会事業部
13:30~/第1回参加体験 14:45~/第2回参加体験

中日新聞のESD「地球未来こども塾」の人気プログラムを再現します！

「地球未来こども塾」は小学校六年生150人を対象に行われる中日新聞のESDです。合掌造りの民宿での宿泊やウォークラリーでは、世界遺産や地域の文化財等に関する学習、トヨタ白川郷自然学校では森とふれあうことで環境学習を体験することができました。今回は子どもたちも体験した、「火おこし」によるエネルギー学習を体験していただきます。



プログラム④ 100年後伊勢湾の漂着ゴミを0に

会場 4階 44会議室 実施者/団体名 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
13:30~/第1回参加体験 14:45~/第2回参加体験

三重県鳥羽市の真珠と岐阜県郡上市の杉で作るワークショップ

伊勢湾には年間1万トン以上の漂着ごみが私たちの生活する東海3県から流れてきます。そのゴミをなんとか100年後に0にしたいという思いで出来たのがこの奈佐の浜プロジェクトです。今回は現状と取組を映像で解説しながら、鳥羽の真珠と郡上の杉の間伐材を使用して、伊勢湾のゴミについてかんがえます。

